11　C型肝細胞癌に対して生体肝移植を施行した一例

波田野　徹・津端　俊介・稲田　勢介
佐藤　知巳・富所　隆・杉山　一教
市田　隆文*・風間順一郎**
佐藤　好信***
厚生連長岡中央綜合病院内科
新潟大学第三内科*
同　第二内科**
同　第一外科***

症例は54歳男性．1980年慢性肝炎，92年C型肝硬変と診断．96年より腎不全にて血液透析導入，98年9月C型肝細胞癌（S6）の診断で以後TAI（SMANCS動注）3回施行．家族の希望で，2000年2月長男をドナーとした生体部分肝移植を施行した．術所見でS4に1.2cm S6に3cmのHCCを認めた．3ヵ月後S6, S7にHCCの再発を認めPMCTを施行．8月S7の肝部分切除を施行．その後肺転移をきたし12月，呼吸不全，肝不全にて死亡．剖検で3ヵ所のHCCの再発と両肺への転移を認めた．HCCの再発の要因として免疫抑制剤の使用，慢性腎不全による血液透析が考えられた．

12　Budd-Chiari症候群（Ⅳ型）に対して生体肝移植を施行した一例

山田　聡志・市田　隆文・玄田　拓哉
渡辺　雅史・野本　実・青柳　豊
朝倉　均・佐藤　好信*・畠山　勝義*
新潟大学第三内科
同　第一外科*

13　母子間生体肝移植を施行した成人発症型高シトルリン血症の一例

岩松　宏・須田　剛士・高橋　達
市田　隆文・青柳　豊・朝倉　均
佐藤　好信*・畠山　勝義*・山崎　国男**
新潟大学第三内科
同　第一外科*
県立中央病院**

症例は25歳の女性．両親はいとこ婚．兄及び弟が高シトルリン血症であり，母親はHeterozygoteである．6年前にNH_3・シトルリンの高値，皮膚線維芽細胞のASSの活性低下・mRNAの点変異を認め，Ⅰ型の高シトルリン血症と診断された．2年前に妊娠を契機に肝性昏睡に陥り，妊娠は中断された．現在特に症候を認めないが，本疾患の生命予後，精神レベルの低下，挙児の希望により，実母をドナーとする生体肝移植（APOLT）が施行された．高シトルリン血症は尿素サイクルのASSの障害により，シトルリン・NH_3が蓄積する疾患であり，Ⅰ型－Ⅲ型に分類されている．現在までⅡ型では本邦で10数例の肝移植の報告があり，良好な結果を得ているが，Ⅰ型の移植例の報告はない．本症例では術後NH_3値はほぼ正常化したが，シトルリン値は未だ高く，今後厳重な管理が必要であり，本疾患に対する肝移植の適応を検討する必要がある．

14　Milano Criteriaを逸脱した肝細胞癌に対する生体ドミノ肝移植の一例
― 術後経過と再発ならびにそれに対する治療に関する検討 ―

岡村　和気・福原　康夫・市田　隆文
上村　顕也・三木　巌・渡邊　庄治
渡辺　雅史・青柳　豊・朝倉　均
杉町　圭蔵*・西崎　隆*・佐藤　好信**
畠山　勝義**
新潟大学第三内科
九州大学第二外科*
新潟大学第一外科**